

## 海中公園

## ○はじめに

海浜自然センターが開館して早 3 年が経ちました。これまで、センターのスノーケリング講座では、時折、海中公園について説明してきましたが、本誌をご覧いただいている皆さんの中に、まだ、「海中公園とは、海の中に造られた公園のこと」と思われている方がいらっしゃいましたら、それは自然保護課で海中公園を担当している私の責任です。

海浜自然センターにお越しになられたことがある方なら、センター周辺の若狭湾国立公園(1955 年指定)に県内唯一の三方海中公園地区(4 地区、面積 30.2ha、1971 年指定)が指定されていることをご存知かと思いますが、今回はもう少し詳しく海中公園について紹介させていただきます。

## ○自然公園制度の誕生

陸上の優れた自然景観や野生生物を有する場所は、アメリカが 1872 年にイエローストーン国立公園(National Park)を指定し、森林、草原、溪谷、間欠泉、バッファローなどの野生生物を国が手つかずのまま原始的な状態で保護すると同時に多くの人にその自然を楽しませる制度を創設しました。日本においては、1873 年の太政官布告により公園制度が発足、1931 年に国立公園法が制定され、1934 年 3 月に雲仙、霧島、瀬戸内海等の最初の国立公園が、1950 年には琵琶湖、佐渡弥彦米山、耶馬日田英彦山等の最初の国立公園が指定されました。その後 1957 年には自然公園法が制定されるとともに国立公園法が廃止され、現在の自然公園体系が確立されました。

## ○海中公園制度の誕生

一方、海中のこのような公園は、やはりアメリカが 1935 年にフロリダ半島先端のサンゴ礁・Florida keys の先端、キーウエストの西方にある歴史的建造物、ジェファーソン砦を国家保存物(National Monument・アメリカの国立公園体系の一つ)として指定した際に、周囲のサンゴ礁も含めて保護することになったのが始まりです。

1960 年代に入ると先進国では開発による自然の衰退が徐々に現れ始め、沿岸の浅海域もその例外ではありませんでした。沿岸の浅海域は生産力や生物相が豊かな地域であるため、これを保全することが世界的な課題となりはじめ、1960 年にはアメリカのフロリダ州が Florida keys に沿ったサンゴ礁 Key Largo を John D.Penne-kamp サンゴ礁州立公園として指定し、1961 年にはカリブ海の米領、バージン諸島にあるバック島(サンゴ礁の小島)がアメリカの国家保存物に指定され、周囲のサンゴ礁が保護されるようになりました。このような動向が基となり世界的趨勢へと発展していくのです。

1962 年、国際自然保護連合(IUCN)によりアメリカ・シアトルで開催された第 1 回世界国立公園会議では、危機に瀕する浅海の生物を救うために生息地を保護するべく、海中に公園あるいは保護区を設定するよう各国政府に勧告することが決議されました。

## ○日本の海中公園制度

日本では、この勧告を受けて海中公園設定の研究と候補地の調査が開始され、その結果国立・国定公園の延長として海域に保護区を設けることとなり、1970年に自然公園法の改正を行い、優れた海中景観を有する海域を国が海中公園地区として指定することになりました。現在は、北は北海道積丹半島から南は沖縄県八重山諸島まで25の国立・国定公園に、63地区の海中公園が指定されています。

海中公園とは、すぐれた海中景観を保護するため指定される海中公園地区とその周辺1kmの海面の普通地域、ならびに海中公園地区の海中景観を利用するための施設を総括する言葉です。

海中公園地区は、国立公園については環境大臣が、国定公園については都道府県知事が、自然公園法に基づき公園内の海中景観を維持するため、公園計画に基づいてその区域の海面内に指定することとなっています。

海中公園地区内では、工作物の新築・改築・増築や土石を採取したり海面を埋め立てること、あるいは熱帯魚・さんご・海そう等で環境大臣が指定する動植物(海中公園地区毎に指定、農林水産大臣の同意が必要)を捕獲、殺傷、採取、損傷すること等の行為は、許可を受けなければしてはならない等の規制を行うことにより海中景観の保護を図っています(自然公園法第18条の2参照)。

三方海中公園地区の採捕規制動植物は下表のとおりです。

表 三方海中公園地区の採捕規制動植物

動物	植物
スズメダイ科、チャガラ、キヌバリ、タツノオトシゴ、ピウラ科、パンカイメン科、イソカイメン科、ザラカイメン科、ケヤリ、オオギウミヒドラ、オウギフトヤギ、ムツサンゴ、ウミイチゴ、ウメボシイソギンチャク科、フイマンツス科、オオウミシダ、ニッポンウミシダ、イトマキヒトデ、アカヒトデ、クサズリガイ科、カモガイ、タマキビガイ、カメノテ、エボシガイ、イワフジツボ科、フジツボ科	ツルモ、アミジグサ、コナウミウチワ、シワヤハズ、アヤニシキ、ヒメユカリ、ミル、ホソジュズモ、クロモ、ホソバノトサカモドキ、ダルス、コスジフシツナギ、ワツナギソウ、ケイギス、クロソゾ、タオヤギソウ、サンゴモ科、ウミトラノオ

## ○海中公園地区指定方針

海中公園地区は、海中景観のすぐれた地域であって、次のような基準に適合する地域を指定することとなっています。

- 1 周囲の陸域、海域がともに国立公園または国定公園の区域として指定されており、かつ陸域の自然保護が十分はかれるものであること。
- 2 海底地形に特色があり、海中動植物が豊富であること。
- 3 海水が清澄であり、河川等により汚濁されるおそれが少ないこと。
- 4 水深はおおよそ20m以浅を標準とする。
- 5 潮流および波浪があまり激しくないこと。
- 6 栈橋、休憩所、自然教室、駐車場等の陸上関連施設を設ける土地が周辺にること。
- 7 漁業との調整が可能であり、特に海中景観の保護について地元漁業関係者の協力が得られること。
- 8 その他各種産業開発による景観破壊のおそれが少ないこと。

## ○海中公園の役割

今日、自然保護の重要性は非常に高くなっていますが、観念的に自然保護の重要性を知っていても実感としてとらえていなくては自然保護の大きな力にはなりません。自然の本当のすばらしさを知らなければ、本当の価値もわからないし、本当に自然を守りたいとは思わないでしょう。

すばらしさを実感としてとらえるためには、実際に海に入って海中の生物がつくる景観にふれてみるのが最良の方法です。海中公園はこうした活動の拠点としての役割を担っています。こうした活動の拠点として平成 11 年に福井県は海浜自然センターを開館したわけですが、全国の海中公園には、串本海中公園センター(串本海中公園地区、和歌山県)、竹野スノーケルセンター(竹野海中公園地区、兵庫県)、のと海洋ふれあいセンター(内浦海中公園地区、石川県)等多くの拠点施設が設けられています。

## ○世界の海中公園と国際協力

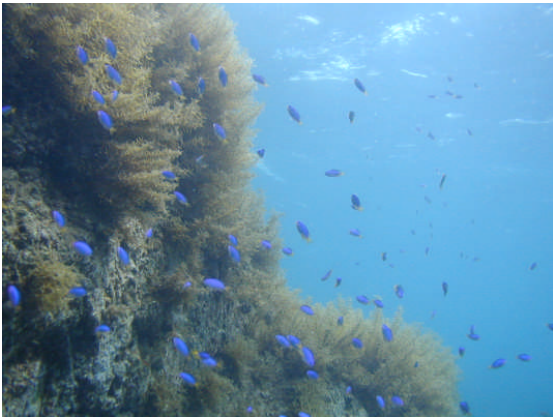
沿岸の生態系保全は国際的な動向のなかで発展してきました。現在では世界の多くの国で海中公園やそれに類似した制度が見られ、その数は 1,300 にも上ります。最も規模が大きいのがオーストラリアのクレート・バリア・リーフ海中公園で、南北 2,000km にわたるサンゴ礁が指定されています。アメリカにも北はジャイアントケルプの森から南はサンゴ礁まで 12 の海中公園があります。

日本、アメリカ、オーストラリアなどは IUCN を通じて世界の海中公園の発展に協力しています。

## ○さいごに

海浜自然センターで開催しているスノーケリングによる海中観察会は、実際に海に入って海中の生物がつくる景観に直接ふれてみることを体験する活動であり、海中公園の最も大切な役割を担う活動です。自然の大切さを実感するためのこのような活動は、自然豊かな海岸線に恵まれた福井県では、関係者の理解が得られれば、海中公園地区以外でも可能です。

県は昨年度から三国東尋坊地区自然学習歩道の整備に着手しておりますが、この事業では、地元の皆さんや三国町の協力を得て、越前加賀海岸国定公園に指定されている三国東尋坊地区の浅海域での海中観察会の実現を目指しています。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



ソラスズメダイの群れ

(2002.8.31 三方海中公園地区 1 号)



フトヤギ類

(2002.8.31 三方海中公園地区 1 号)



ユウダチタカノハダイ

(2002.8.31 三方海中公園地区 1 号)



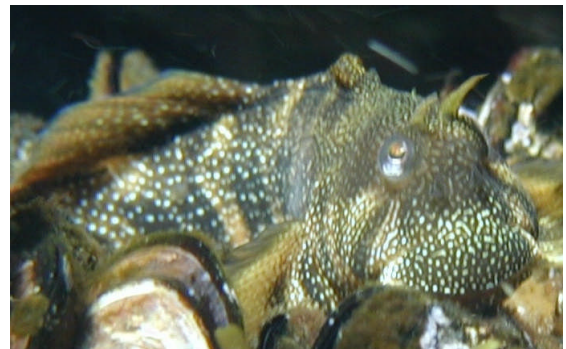
ウミシダ類

(2002.9.1 海浜自然センター前)



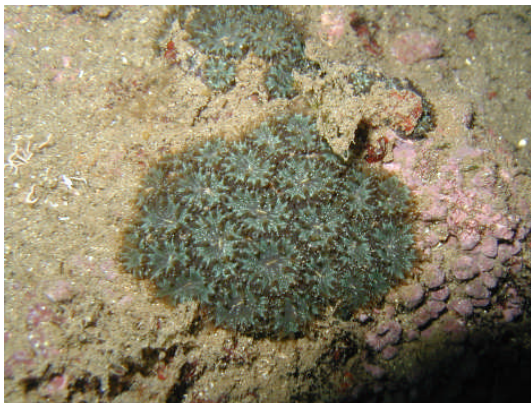
ミドリアメフラシ

(2002.9.1 海浜自然センター前)



ホシギンポ

(2002.9.1 海浜自然センター前)



キクメイシモドキ

(2002.9.29 三方海中公園地区 2 号東側)



キンチャクダイの幼魚のペア

(2002.9.29 三方海中公園地区 2 号東側)